

高齢者運転免許証返納促進事業に関するアンケート調査結果

1 調査の目的

高松市では、高齢運転者が当事者となる交通事故を抑止するため、平成22年度から、自動車運転免許証を自主返納された市内在住の65歳以上の方に、ことடன்シニアイルカカード乗車券又はJR四国イコカカード乗車券(いずれも1万円分)を交付し、返納された方の支援を行っています。

このアンケート調査は、現在実施している高齢者の免許証自主返納制度を、より実効性のある制度にする見直しを検討するため、高齢者の免許証返納に対する意識や、望ましい環境整備等を把握することを目的に実施したものです。

2 調査の概要

(1) 調査対象者

平成28年4月1日現在の住民基本台帳から、65歳以上の市民2,000人を、無作為に抽出しました。

(2) 調査方法

郵送により配布、回収しました。

(3) 調査期間

平成28年8月1日(月)～8月31日(水)

(4) 回収状況

回収数 1,010件／2,000件

回収率 50.5%

3 調査項目

(1) 本事業の認知度及び有効性の考えについて……【問1】～【問3】

(2) 運転をやめる年齢について……【問4】

(3) 返納阻害要因について……【問5】

(4) 返納後の移動手段について……【問6】

(5) 返納理由及び返納しやすくするための環境等について……【問7】～【問8】

(6) その他自由意見……【問9】

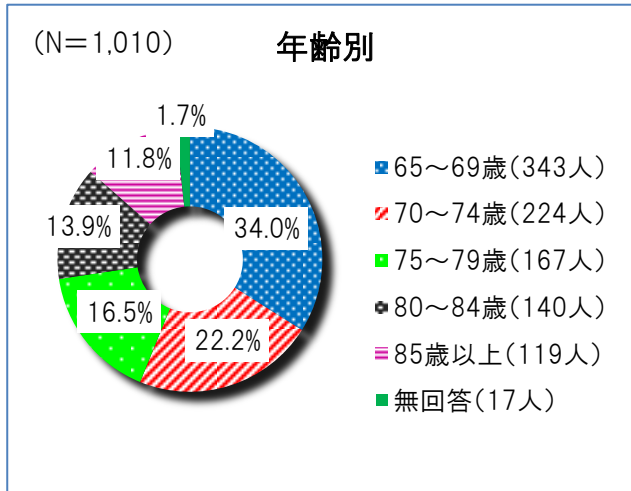
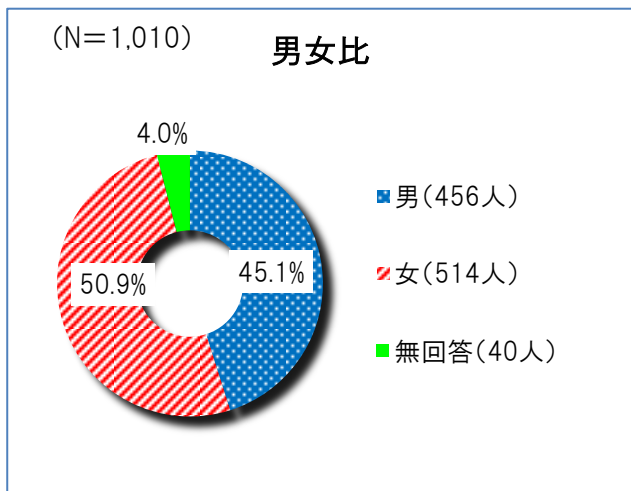
4 調査の結果

※ 集計の割合は、百分率(%)により、小数点第2位を四捨五入して表示しているので、合計が100%にならない場合があります。

～アンケート回答者について～

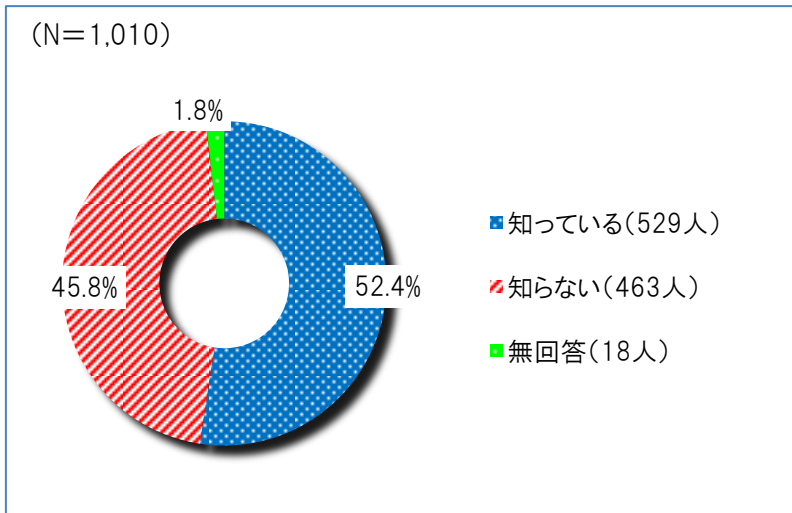
【性別】

【年齢】



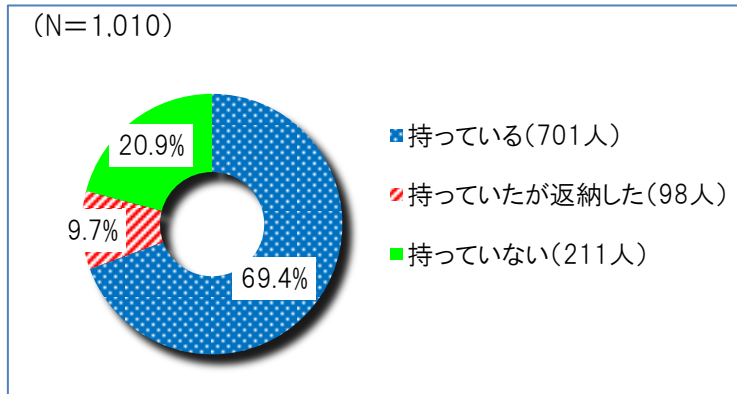
アンケート回答者のうち男性が45.1%、女性が50.9%となっている。
 アンケート回答者のうち「65～69歳」が34.0%と最も多く、次いで「70～74歳」が22.2%となっている。

問1 本市では、運転免許証を自主返納された市内在住の65歳以上の方に、ことடன்シニアイルカカード乗車券又はJR四国イコカカード乗車券(いずれも1万円分)を交付し、返納された方の支援を行っています。
 この事業を知っていますか。



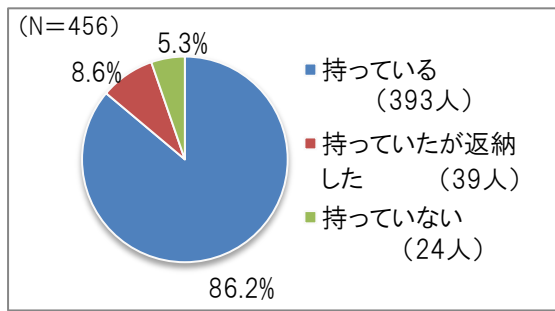
「知っている」が、52.4%と過半数を占めている。
 なお、自動車運転免許証を持っている又は持っていたが返納した方のうち、「知っている」の割合は54.2%を占め、全体の割合と近い数値となっている。

問2-1 自動車運転免許(バイクを含む)を持っていますか。

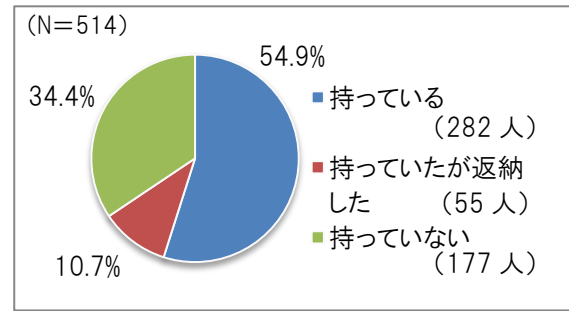


⇩ ◎男女比は、以下に示すとおりです。

【男性(456人)】



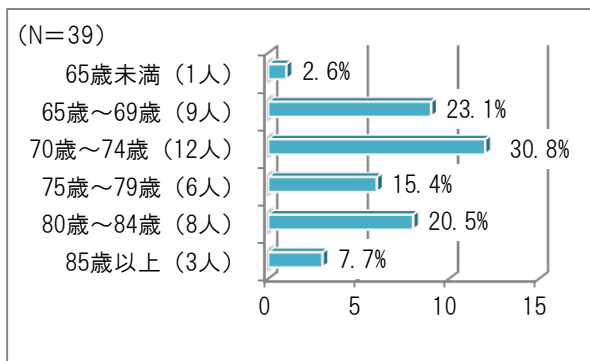
【女性(514人)】



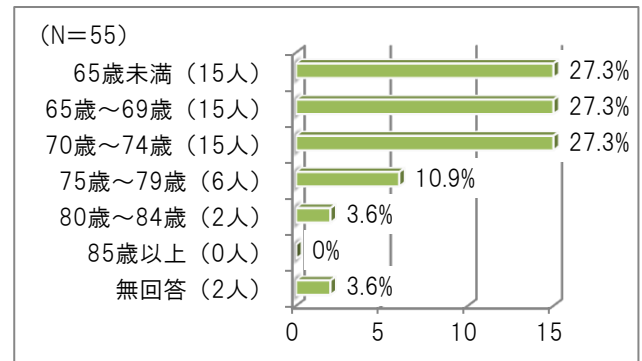
※性別無回答(40人)

⇩ ◎免許証を持っていたが返納した方の返納時の年齢内訳(男女別)は、以下に示すとおりです。

【男性(39人)】



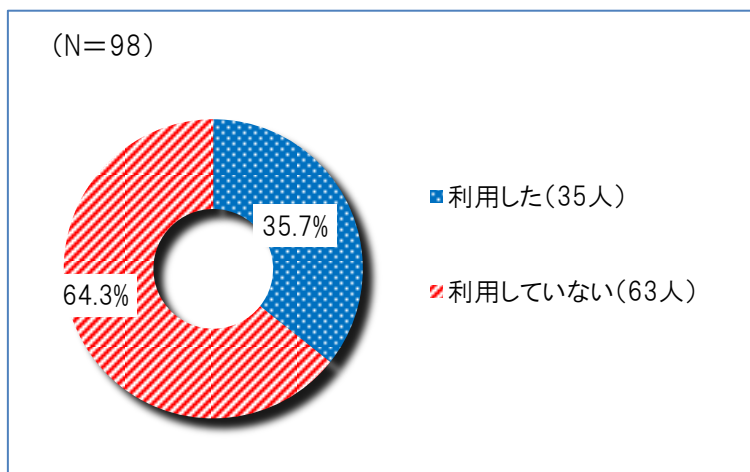
【女性(55人)】



7割近くの方が免許証を保有しており、およそ1割の方が、すでに返納している。
 また、男性・女性別の免許証の保有状況は、上記のとおりであり、免許保有率は男性の方が高い。
 免許証の返納率(持っていたが返納した/(持っている+持っていたが返納した))は、男性が9.0%、女性が16.3%と女性がやや高いが、それほど大きな差異は見られない。
 実際に免許証を返納された方の返納時の年齢内訳を見ると、男性より女性の方が早い段階で免許証を返納していることが分かる。

問2-2 「2 持っていたが返納した」と答えた方におうかがいします。

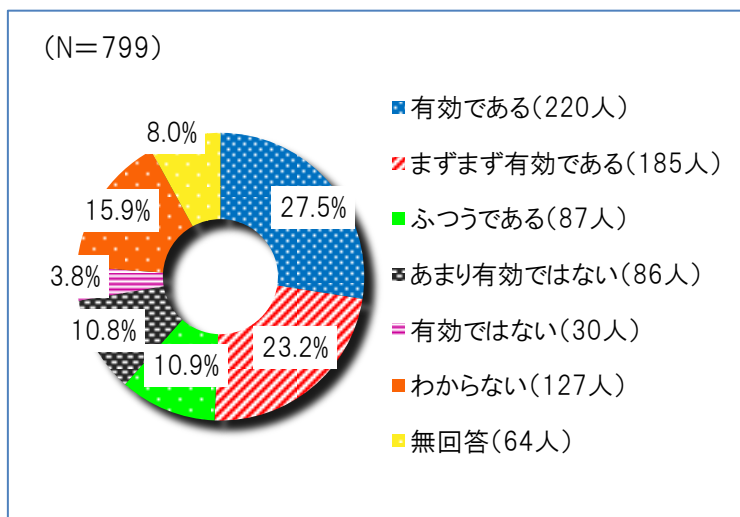
運転免許証を返納したとき、本市の事業を利用しましたか。



本市の事業は平成22年度から実施しており、それ以前に返納された方はカードの交付対象外となる事情などから、利用率が35.7%と、およそ3分の1に留まっているものと推測される。

問3 持っている方と持っていたが返納した方におうかがいします。

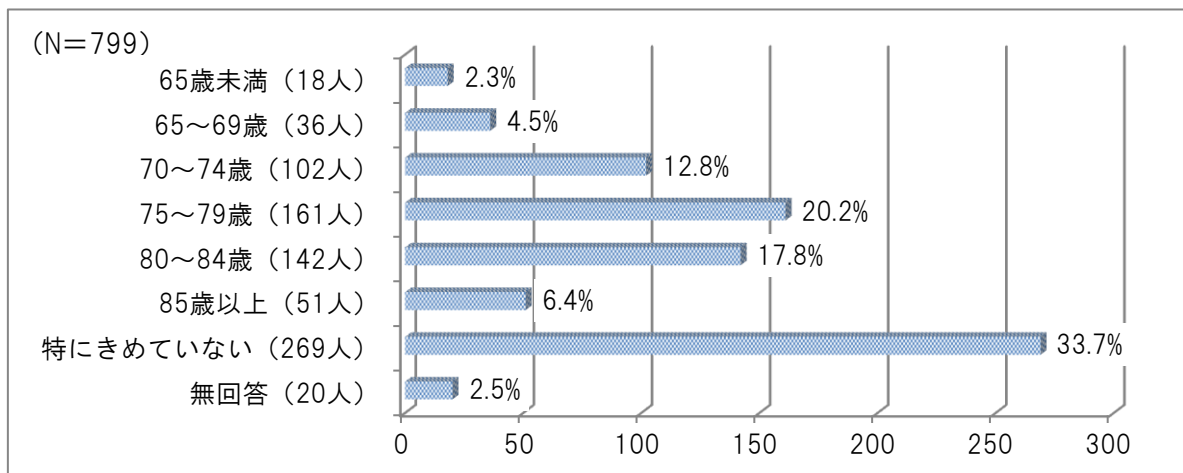
本市の運転免許証返納促進事業について、どう感じていますか。



「有効である」及び「まずまず有効である」を合わせると、50.7%と過半数を占めている。

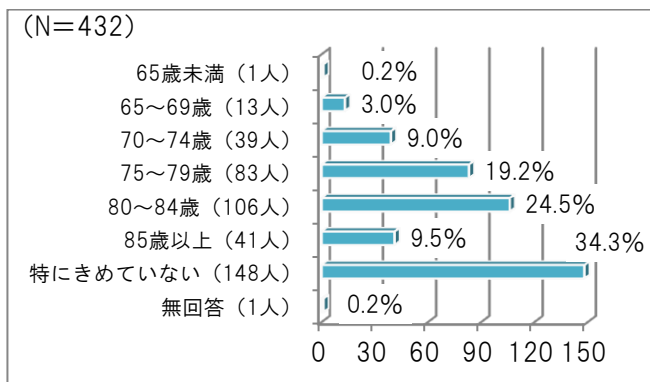
なお、問2-2の質問で「運転免許証を返納したとき、本市の事業を利用した」と答えた35人のうち、27人（約8割）の方が「有効である」及び「まずまず有効である」と答えている。

問4 何歳まで運転したいとお考えですか。(返納者は返納時の年齢)

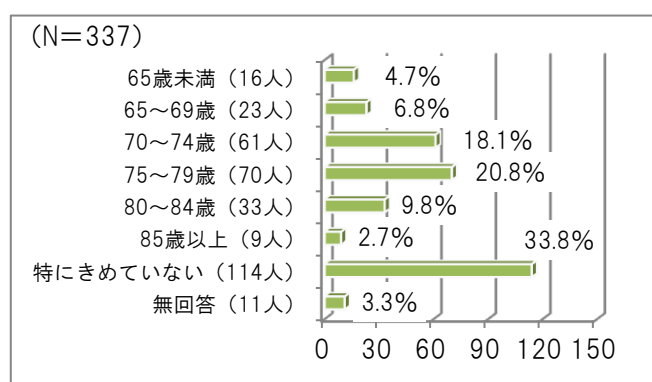


◎男女比は、以下に示すとおりです。

【男性(432人)】



【女性(337人)】

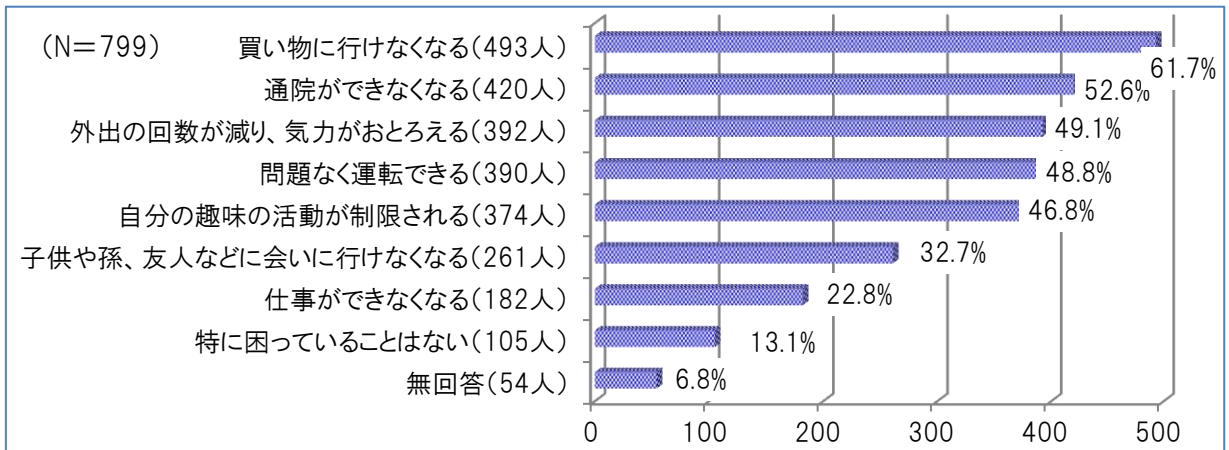


※性別無回答(30人)

「特に決めていない」が33.7%と、およそ3分の1を占め、最も高い比率となっている。
 返納する年齢をきめている方のうち、「75～79歳」が20.2%と最も多く、次いで「80～84歳」が17.8%、「70～74歳」が12.8%と続いている。
 自動車運転免許を「持っている」又は「持っていたが返納した」方(799人)を男性(432人)、女性(337人)別に比較した場合、80歳以上まで運転したいと考える方は、男性が34.0%、女性が12.5%となっており、男性の方が高い年齢まで運転をしたいと考える傾向にある。

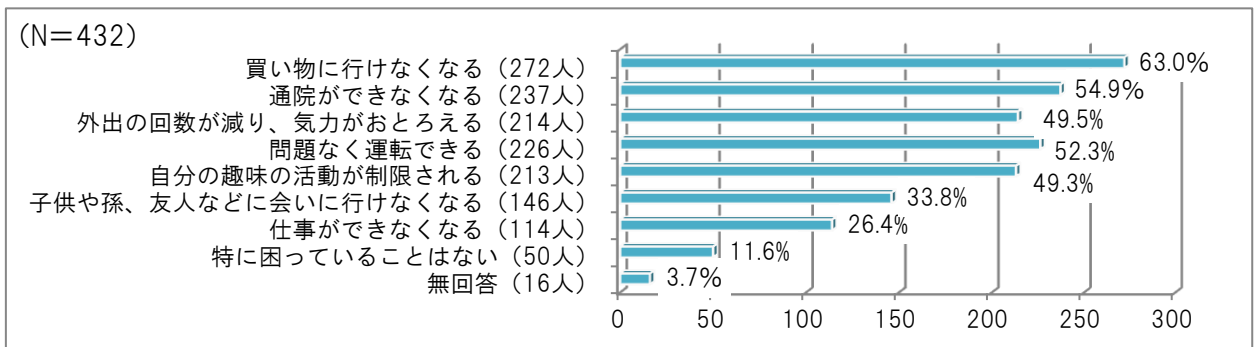
問5 返納をしない理由は何ですか。

(返納者は、現在、困っていること。) 【複数回答可】

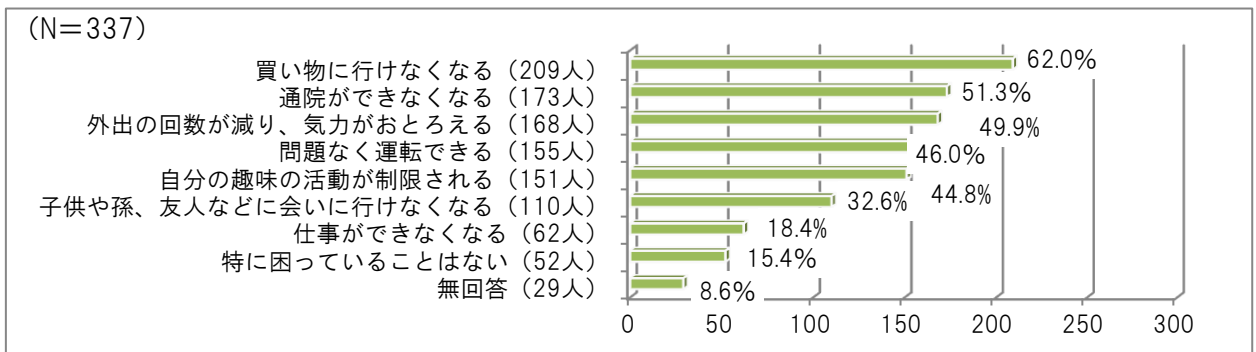


◎男女比は、以下に示すとおりです。

【男 性(432 人)】



【女 性(337 人)】



※性別無回答(30人)

「買い物に行けなくなる」が61.7%と、最も高い比率となっている。

次いで「通院ができなくなる」が52.6%、「外出の回数が減り、気力がおとろえる」が49.1%と続いている。

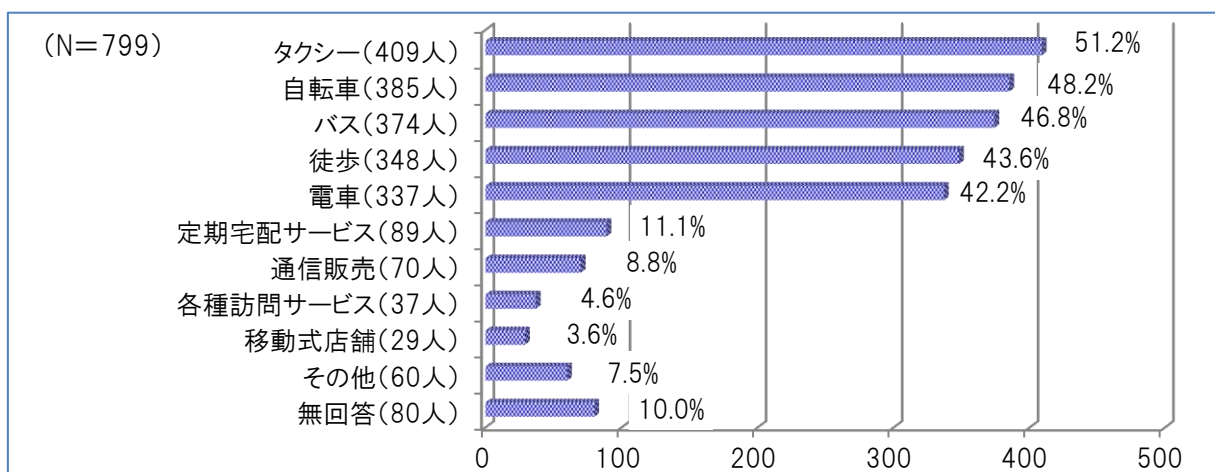
「問題なく運転できる」も48.8%と、およそ半数を占めている。

「特に困っていることはない」は13.1%と、全体の割合から見ると低い比率となっている。

なお、返納をしない理由における男女間の違いは大きく見られない。

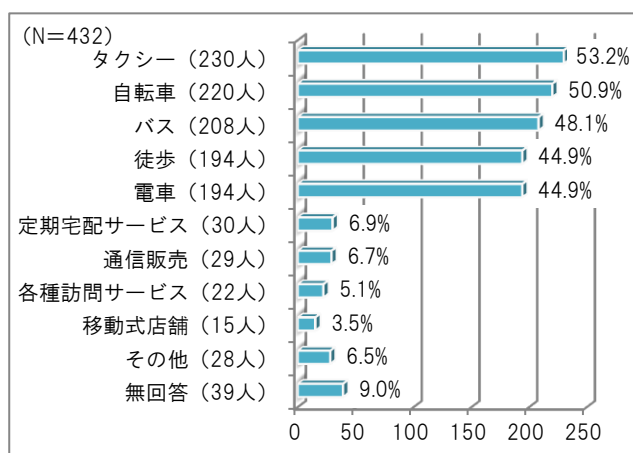
問6 返納後、外出時の移動手段で、主に使うと思われるものはありますか。

(返納者は現在の状況) 【複数回答可】

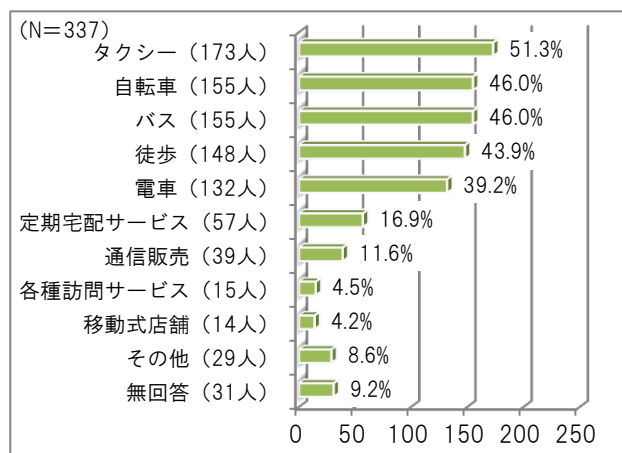


◎男女比は、以下に示すとおりです。

【男性(432人)】



【女性(337人)】



※性別無回答(30人)

「タクシー」が51.2%と、最も高い比率となっている。

次いで「自転車」が48.2%、「バス」が46.8%、「徒歩」が43.6%と続いている。

また、「定期宅配サービス」や「通信販売」、「各種訪問サービス」などの、自宅に居ながら利用できる各種サービスについては、1割程度か、それ以下の比率となっている。

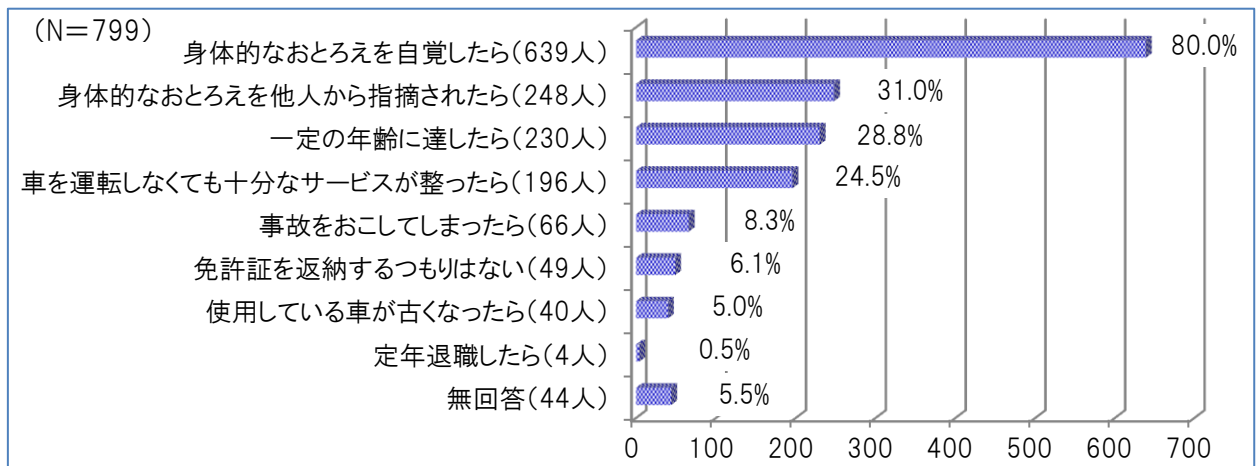
男女間における違いは、大きく見られない。

なお、「その他」と答えた60人のうち、代表的なものについて、一部要約して次のとおりご紹介させていただきます。

- ◆ 家族や親族、知人の車に同乗する。
- ◆ 歩行器、電動カートを使用する。
- ◆ 家事サポートセンターを利用する。
- ◆ 外出しなくなると思う。
- ◆ 近隣に公共交通機関がなく、移動手段が考えられない。
- ◆ 高齢者は孤立してしまう。
- ◆ 返納の意思がないので考えたことがない。

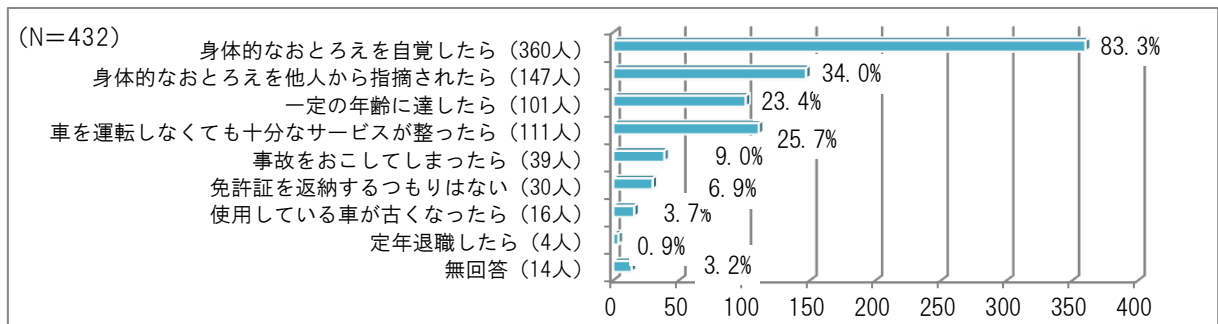
問7 どのような状態になったら、免許証を返納してよいとお考えですか。

(返納者は返納時の理由) 【複数回答可】

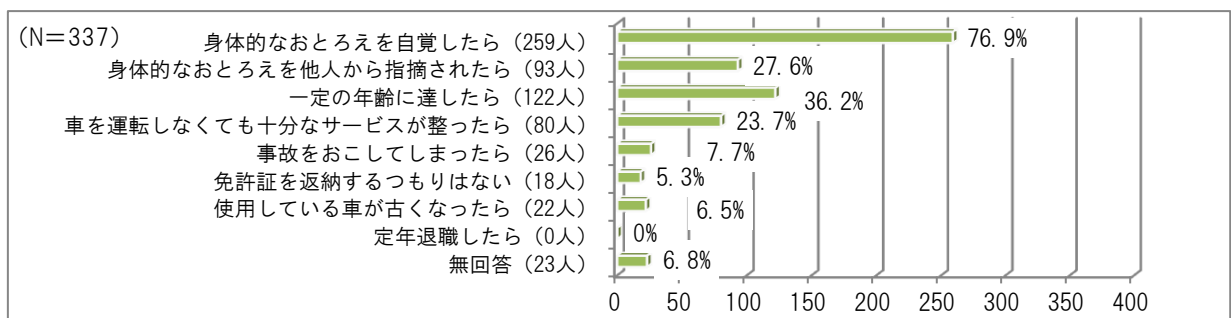


◎男女比は、以下に示すとおりです。

【男性(432人)】



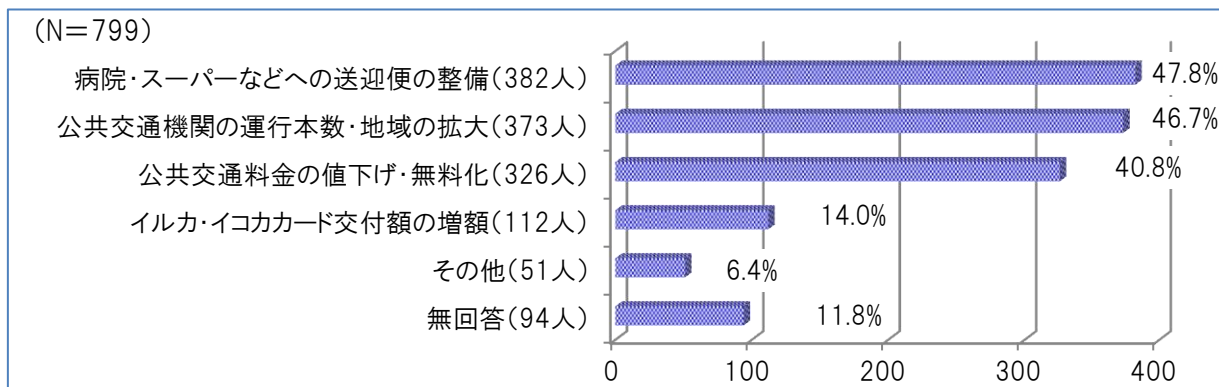
【女性(337人)】



※性別無回答(30人)

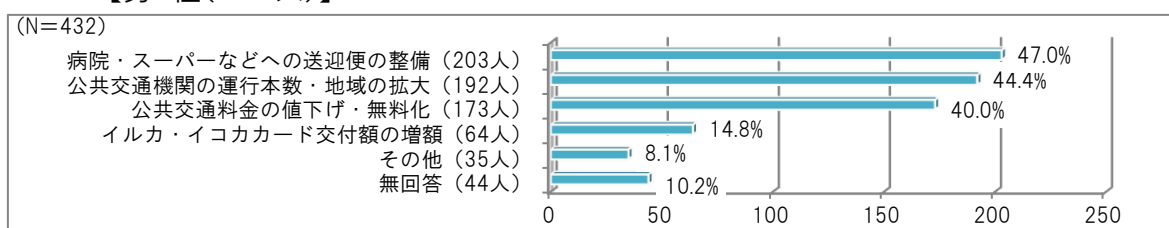
「身体的なおとろえを自覚したら」が80.0%と、突出して最も高い比率となっている。
 次いで「身体的なおとろえを他人から指摘されたら」が31.0%を占め、いずれも、運転に支障や不安を感じたり、周囲からそのような助言・意見を得ることを機に、免許証を返納しようとする考えが一般的であると見受けられる。
 また、「一定の年齢に達したら」が28.8%、「車を運転しなくても十分なサービスが整ったら」が24.5%と続いている。
 なお、「免許証を返納するつもりはない」は、全体の割合からみると低い比率ではあるものの、6.1%となっている。
 男女間における違いは、大きく見られない。

問8 どのような環境を整えば、返納しやすくなりますか。 【複数回答可】

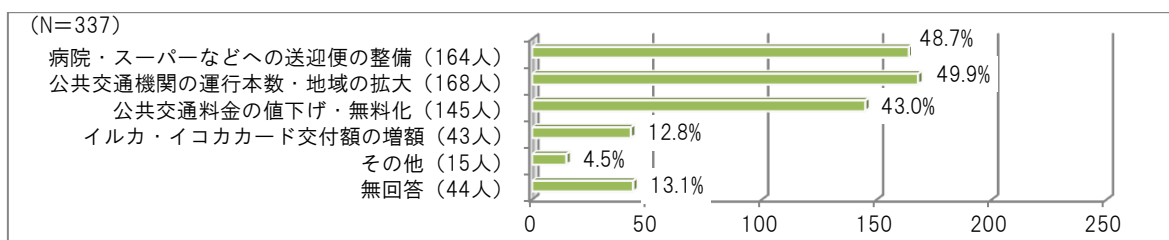


◎男女比は、以下に示すとおりです。

【男性(432人)】



【女性(337人)】



※性別無回答(30人)

「病院・スーパーなどへの送迎便の整備」が47.8%と、最も高い比率となっている。
 次いで「公共交通機関の運行本数・地域の拡大」が46.7%、「公共交通料金の値下げ・無料化」が40.8%と続いている。

「イルカカード・イコカカード交付額の増額」は14.0%と、上位3項目の比率と比べ、低い比率となっている。

男女間における違いは、大きく見られない。

なお、「その他」と答えた51人のうち、代表的なものについて、一部要約して次のとおりご紹介させていただきます。

- ◆ タクシー代の値下げや利用補助、割引等の支援。
- ◆ タクシーのように必要に応じて送迎してくれる制度。
- ◆ 町内循環型の相乗りタクシーのようなサービス。
- ◆ 中心市街地だけが便利であれば良しとする政策ではなく、市街周辺部でもバス等を利用できる環境を整備する必要がある。
- ◆ マイカーと同等、或いはそれに近い交通手段の整備。
- ◆ 移動型の販売車を望む声が周囲から出ている。
- ◆ 自転車道の整備。
- ◆ 自動運転の車の普及。
- ◆ 他のサービスには限界がある。
- ◆ 車がなかったら生活に支障がでる。
- ◆ 返納しやすくなる理由は考えられない。

問9 その他のご意見やご感想

※問8までの設問でお答えいただいたご回答やご意見のほかに、378人からいただいた、その他のご意見やご感想のうち、代表的なものについて、一部要約してご紹介させていただきます。

- ◆ バス等を小型化して、便数がある程度確保する。
- ◆ 町内循環バスは停留所が少ないので利用しにくい。
- ◆ 公共交通機関の乗り場を増やして欲しい。
- ◆ 自転車に乗るとき、車と同じ車道を通るのが非常に怖いので、安心して走れる自転車道の整備をお願いします。
- ◆ 問8の環境整備をすることで、自然と車利用が減る社会になると思う。
- ◆ タクシーに代わるものとして、低料金で利用できるボランティア的な地域内共同交通の仕組みの構築。
- ◆ 歴史・文化財や自然などの鑑賞や店舗利用者の利便性を高めるなど、コミュニティバスの運行に工夫を加えるとともに、それを多くの人々にPRして、地元住民以外の利用者を増やすことが、自家用車利用の減少につながると思う。
- ◆ 客観的に能力低下を実感できるようなシステム、例えば運転シミュレーターなどを、気軽に利用できるようにショッピングセンターなどに設置し、利用実績を定期的に記録することを義務化することなどが必要と考える。
- ◆ 「身体的な衰えが認めたら返納すべきである」という意識を、当事者やその家族などに、もっと持ってもらえるような環境づくりが必要と思う。
- ◆ 交通ルール・マナーを守る教育の徹底や安全運転意識の啓蒙が重要である。
- ◆ 同じ1万円を支援するならば、タクシー券などの方が使いやすい。
- ◆ 公共交通機関を拡大するには、免許証を保有していない人にも支援を広げればよいと思う。
- ◆ イルカカードもイコカカードも交通機関が無いところでは利用できないため、その地域の住民にとっては高松市の支援制度は無意味である。
- ◆ 身体的な衰えや能力を年齢で推測し、免許証の返納を進めようと考えているようだが、このような事業には賛同致しかねる。
- ◆ 税金を使って、あまり優遇するのもどうかと思う。
- ◆ この支援制度は事故をなくすためのよい制度だと思う。
- ◆ イルカカードがゴールドで半額のため、たいへん助かっている。
- ◆ 高松市の支援制度について、もっとPRしたらよいと思う。
- ◆ 自主返納された方の現状や実態等を、市の広報紙に掲載すればよいと思う。
- ◆ 近距離は自力で移動できるような健康体力増進の意識付けを行うことはいかがでしょうか。
- ◆ 返納を促進するよりも、発想を転換して、精神的・肉体的にも若返る方法の促進を提唱する。
- ◆ イルカカードやイコカカードとはどのようなものですか。
- ◆ 公共交通機関が身近にないので、やむを得ず車を使用しており、車なしの生活は考えられない。

- ◆ 移動手段が徒歩しかない場所に住んでいるので、電車の駅付近に住んでいる友人がうらやましい。
- ◆ 自分でも身体の衰えを自覚しているので、車だけに頼らず、できる限り安全な方法で移動することを考える。
- ◆ 近い将来、返納しなければならないと思いつつ、細心の注意を払い運転しています。
- ◆ 身近にいる運転できる家族や知人がいなくなった時のことを考えると不安だ。
- ◆ 同じ市内であっても、中心部と郊外に住む人の交通利便性の格差は広がっているため、これからも心配している。
- ◆ 高齢者だけを目の敵にしないで欲しい。
- ◆ 急いで返さなくても持っているだけでちょっと安心する。返納は淋しさを感じる。
- ◆ 主人は免許証を返納したので安心している。
- ◆ 免許証返納の手続きの手間が煩わしい。
- ◆ 免許証の更新時に適性検査を行い、不適になれば免許証を発行できなくすればよいと思う。
- ◆ 法的な問題は承知しているが、一定の年齢になれば免許証を返納する義務を課してはどうか。
- ◆ 一度、免許証を自主返納した方でも、無料で免許を取り直す制度があってもよいと思う。
- ◆ 高齢者講習に行ったが、内容が大ざっぱなように思えたので、もっと厳しい講習にすればよいのでは。

【総括】

本市において65歳以上で運転免許証を保有する方は、平成27年中、62,846人で、うち自主返納した方は1,244件、返納率は1.98%という状況である。(香川県警調べ)

本アンケート調査では、9.7%の方が「免許証を返納した」と答えており、免許証を返納された方が積極的に御協力いただいたものと考えられる。

『何歳まで運転していたい』という質問に対し、4分の1程度(24.2%)の方が80歳以上まで運転していたいと考えており、男性の方が高い年齢まで運転したい傾向にあった。

『どのような状態になったら免許証を返納してよいか』という質問に対し、「身体的なおとろえを自覚したら」(80.0%)が極めて高い割合を示しており、ほとんどの方が免許証返納の理由と考えている。

本市では、高齢者を対象に交通安全教室などを実施しているが、改めてカリキュラムを見直し、高齢者の方々が自身の身体的な変化に気付くような機会を提供することも今後の検討課題の一つである。

全国的に高齢ドライバーによる重大事故の発生が報道されているが、本市においても平成28年でこれまでに発生した17件の交通死亡事故のうち、65歳以上の方が乗用車を運転していたものは、5件(平成28年11月25日現在)であった。交通事故が高齢ドライバーだけでなく、また、事故が高齢による身体的な変化に起因しているとは限らないかもしれないが、増加する高齢ドライバーへの交通安全対策は、行政にとって取り組むべき課題として、急務となっている。

身体的なおとろえに気付いたドライバーには、免許証を返納していただくことが、高齢ドライバーの事故回避として最も有効な方法の一つと考えており、その動機づけとして、高齢者運転免許証返納促進事業を有効活用していただくよう、周知啓発に努めてまいりたい。